卓　球　部

年　表

昭和23年４月	創部　部員６名
S．23．８．	近畿大会（第２回）初出場 男子団体第三位入賞
S．24．７．	男子団体優勝
S．24．７．	全国高校卓球選手権大会初出場
S．29．４．	辻歓則氏監督就任
S．30．８．	全国大会個人複　玉石・清水組初ランク入り
10．	国体五位入賞（清水）
S．31．７．	近畿大会個人単初優勝（清水）
S．31．10．	国体第三位入賞（清水・堀内）
S．34．７．	近畿大会団体初優勝
８．	全国大会個人単　中谷初ランク入り
S．35．８．	全国大会団体初のベスト８入り　個人複　玉石・成江組　単和田　堀内ランク入り 全日本硬式卓球選手権大会ジュニアの部　堀内ランク第八位入賞
S．36．７．	近畿大会個人複　玉石・成江組準優勝　単玉石第三位入賞
８．	全国大会団体ベスト８入り個人複玉石・成江第三位入賞
S．37．10．	国体第五位入賞（畑野・宮本）
S．38．12．	全日本硬式卓球選手権大会ジュニアの部第三位入賞（宮本）
S．39．８．	全国大会個人単　川合ランク入り
S．41．７．	近畿大会団体優勝
８．	全国大会団体第三位入賞 個人単　内水ランク入り
S．43．８．	全国大会団体ベスト８に入賞
S．45．７．	近畿大会個人単　谷川　女子で初の第三位入賞
８．	全国大会個人単　谷川女子初のランク入り
S．48．９．	辻監督辞任
11．	全日本硬式卓球選手権大会ジュニアの部　石谷ランク第七位入賞
S．49．５．	全国高校選抜卓球大会　石谷ランク第七位入賞
S．52．８．	全国大会個人複　谷口・板谷組第三位入賞

卓球部の伝統と戦績

我が新宮高校卓球部は、新宮高校に於て最も輝かしい伝統と戦績を誇っているクラブである。この伝統はどのようにして築き上げられたものであるか、ここに創部時代より振り返って追跡してみよう。

昭和24年４月、新制高校発足と同時に、硬式卓球をやりたくて、やりたくて仕様のない生徒がいた。辻（前監督）、植松（現ＯＢ会長）らの、所謂ピンキチ連である。卓球にかける熱意と情熱は卓球部創設への気運を否が応でも盛り上げ、当時の教頭に何度も、何度も請願し、その情熱の前にはついに教頭も折れ、卓球台一台分の予算をもらった。そこで大工だった辻の兄に作製を依頼し、その待ちに待った完成の日、部員一同リヤカーを引いて受け取りに行った。その帰り皆でリヤカーを押しながらの学校までの道のりは、万感胸

に迫るものがあり、決して生涯忘れることのない思いであった。（辻氏談）

卓球台を手に入れたものの次には練習場の問題があった。旧新宮中の雨天体操場や講堂（後の図書館）の間を行ったり来たりで確定していなかった。更に部活動に対する予算はその時代には当然出ず、部員全員がアルバイトをしてその資金を稼いだ。夏休み、各地で行なわれる盆踊りや、熊野市で開かれる花火大会に夜店を出したり、自転車でアイスキャンデーを売り歩いたりして、僅かずつではあったが、全員で積み立てていった。そういう苦労が実を結び、昭和25年、県大会で団体優勝を果たし、東京で開かれた、全国高校卓球選手権大会の出場が決定し、ここに新高卓球部は、歴史的な第一歩を踏み出したのである。それでは以下に先輩達が残した輝かしい戦績の一端を紹介しよう。

23年度

県大会　和工杯争奪大会

男子単　優勝　辻　歓則

S．23．3．　県下に於ける初優勝である尚新宮高校として発足したのは昭和23年4月からであるが、その以前から新宮中学新宮工業として活動していた。

S．23．10．　第3回国体（福岡）に辻出場新宮高校卓球部として初の全国大会出場

S．24．7．　全国学校対抗（後のインターハイ）県予選男子団体初優勝

S．24．7．　近畿大会県予選に男子団体優勝

この二つの大会は別々に行なわれた。又、個人戦は近畿大会予選のみで全国大会は無かった。

S．24．8．　全国学校対抗（東京）に男子団体出場

S．24．10．　第4回国体（東京）に植松豊久、蘭沼江正幸の2名出場

S．25．10．　第5回国体（愛知）に蘭沼江出場

S．25．12．　全国高校選手権（個人戦のみ）後のインターハイシングルスに蘭沼江、山本規夫の2名出場

30年度

県大会　男団体　第3位

複　優勝　玉石・清水

単　第3位　藤原

女複　第3位　松本・田島

全国大会　男複で、玉石・清水組が第8位にランクされ新高初のランクプレーヤーとなる。

国体　清水が健闘し第5位に入賞

31年度

県大会　男団体　第2位

複　優勝　清水・堀内

第2位　綱切・島田

単　優勝　清水

女団体　第2位

近畿大会　男単で、圧倒的な強さで清水が近畿初制覇を成し遂げる。

選手権大会　男団体　優勝

複　優勝　清水・堀内

第2位　島田・小山

第3位　綱切・高木

単　優勝　清水

第2位　島田

国体　清水・堀内の両名が出場、昨年を上回わる第3位入賞を果たす。

32年度

県大会　男団体　第3位

複　第2位　島田・小山

単　第2位　島田

女単　第3位　東

近畿大会	男団体	第３位	
	複	第３位	島田・小山
	単	第３位	島田

33年度

県大会	男複	優勝	小山・辻
選手権大会	男単	優勝	小山
新人大会	男団体	第３位	
	複	第２位	中谷・堀内
	女団体	第３位	
	複	第３位	市村・通堂
		第３位	市村

34年度

県大会	男団体	第３位	
	複	第２位	中谷・堀内
		第３位	玉石・成江
	単	第３位	中谷、堀内
	女団体	優勝	
	複	優勝	市村・通堂
	単	第３位	市村

近畿大会　県大会で優勝を逸した男子はよく頑張り、近畿初制覇を成し遂げる。〝近畿を制するものは全国を制する〟といわれていた当時であるから各全国紙の全国大会の予想には、出場権のない新高が優勝候補の筆頭に上げられていたという笑えないエピソードもあった。

全国大会　男単で、中谷がよく健闘し第10位にランクされている。

新人大会　男団体　優勝

S30年　溝畑・江口両選手招待記念

S42年3月

S35年2月

	複	優勝	玉石・成江
	単	第2位	堀内
		第3位	芝本・玉石
	女団体	第3位	
	単	第2位	通堂

35年

県大会	男団体	優勝	
	複	第2位	玉石・成江
	単	優勝	堀内
		第2位	玉石
		第3位	和田、成江
	女団体	第3位	
	複	第3位	西　・藤原
	単	優勝	松本
		第3位	通堂

近畿大会　近畿二連覇を狙う新高は準決勝に於て、宿敵東山高（京都）と対戦、文字通りの死闘を演じたが惜敗した。単では玉石が堂々第三位に入賞した。

全国大会　団体で初のベスト8入りを果たし、複で玉石・成江組がベスト8入りを果たし、単でも和田がベスト8入り、堀内が第11位にランクされ、万丈の気をはいた。

新人大会	男団体	優勝	
	複	優勝	玉石・成江
		第2位	村上・出射
	単	優勝	成江
		第3位	玉石

また、この年の全日本硬式卓球選手権大会のジュニアの部では、堀内が第8位にランクされているのも特筆される。

36年度

県大会	男団体	優勝	
	複	優勝	芝本・岡上
		第2位	畑野・平野
		第3位	玉石・成江
	単	優勝	成江
		第2位	芝本
		第3位	玉石、村上
	女団体	優勝	
	複	優勝	松本・山本
		第2位	西　・藤原
	単	第3位	松本

近畿大会　男子団体では昨年に続いて第3位に留まった。複では、玉石・成江組がよく健闘したが、惜しくも決勝戦で敗れ、準優勝となった。また、単では、玉石が2年連続第3位に入賞、安定した実力の程を見せた。

全国大会　近畿大会準優勝の実績を持ち、昨年度ベスト8入りを果たした。玉石・成江のペアは堂々準決勝まで勝ち進んだが、惜しくも第3位に留ったが全国第4位にランクされ、和歌山新宮の名を更めて全国に誇示した。

選手権大会	男団体	優勝	
	複	優勝	玉石・成江
		第2位	畑野・平野
	単	優勝	玉石
		第2位	成江
		第3位	岡上
	女団体	優勝	
	複	第2位	松本・山本
	単	第2位	松本
新人大会	男団体	優勝	
	複	優勝	畑野・平野

第3位　岡上・橋本
単　優勝　畑野
第3位　岡上

37年

県大会　男団体　優勝
複　優勝　岡上・宮本
第2位　畑野・平野
単　第2位　畑野
女複　第3位　山本・宮野
単　優勝　山本
第2位　宮野

選手権大会　男団体　優勝
複　優勝　岡上・平野
第3位　畑野・宮本
単　優勝　畑野
女団体　優勝
複　第2位　山体・宮野
単　優勝　山本
第2位　宮野

国体　畑野、宮本の両名が出場、第5位入賞を果たしている。

新人大会　男団体　第3位
複　優勝　宮本・川合
単　優勝　宮本
第3位　川合
女団体　優勝
複　優勝　山本・宮野
単　優勝　山本
第3位　宮野

38年

県大会　男団体　優勝
単　優勝　川合
女団体　優勝
複　優勝　山本・宮野
単　優勝　山本
第2位　長野
第3位　宮野

選手権大会　男団体　優勝
複　第2位　宮本・川合
単　優勝　宮本
第3位　川合
女団体　優勝
複　優勝　山本・宮野
第3位　山本

新人大会　男単　第3位　川合

更に、この年の全日本硬式卓球選手権大会ジュニアの部で、宮本が堂々第3位に入賞、第4位にランクされている。尚、この大会では、第2位に河野、第5位には長谷川という後の世界チャンピオンがランクされている。

39年

県大会　男団体　第2位
複　第2位　川合・上野
単　優勝　川合
女単　第2位　宮野

選手権大会　男団体　優勝
複　第2位　岡崎・玉石
単　優勝　内水
女単　優勝　羽瀬崎

40年

県大会　男団体　優勝
複　第3位　内水・右京
岡崎・玉石
単　第3位　内水
女複　第2位　羽瀬崎・岡室
単　優勝　羽瀬崎

近畿大会　男団体　第3位

選手権大会　男団体　優勝
複　優勝　内水・右京
単　優勝　内水
女単　第3位　坂口

新人大会　男団体　優勝
複　優勝　内水・右京
第3位　玉石・田畑
単　優勝　内水

この年より、京阪神大会に対して、滋奈和3県の卓球技術向上と交流を図る目的を以って第1回近畿3県高校卓球大会（所謂3県大会）が開催されることになり、記念すべき第1回大会より、男子は3年連続、通算4回、女子

は2回の優勝を果たしている。また、個人でも43年の南、44年の谷川、48年の石谷、52年の高井が優勝し、この大会では圧倒的な強さを発揮している。

この年はすべての県内大会に優勝、県内では無敵の強さを誇っていた。部内での練習も真剣そのもので、部内での順位がそのまま県での順位につながるとあって、練習試合の1本のエッジボールやネットインのボールに対しても「入った。」「いや、入らない。」で、仕舞には、取っ組合の喧嘩が起こるのも日常茶飯事のことであった。

41年

県大会　男団体　優勝
　複　第3位　内水・右京
　単　優勝　内水
　　第3位　玉石、右京
　女複　第2位　岡室・坂口

近畿大会　全国大会初制覇に的を絞った新高はその前哨戦として、2度目の近畿制覇を目指して近畿大会に臨んだ。緒戦から破竹の勢いで勝ち進み、決勝戦では宿敵、東山高と対戦、接戦の末、2度目の優勝を飾り、全国大会に向けての士気は弥が上にも高まった。

全国大会　近畿制覇の実績をひっさげて、青森インターハイに臨んだ新高は、全国の強豪を物ともせず準決勝に進出し、地元の青森商高と対戦した。しかし、実力に勝ちながらも地元の熱狂的な応援の前に、十分実力を発揮できず接戦の末、惜敗したのは悔まれる。しかし全国大会第3位入賞の偉業は和歌山県卓球史に今尚燦然と輝く1ページを飾っている。また、個人単では内水が第10位にランクされた。

選手権大会　男団体　第3位
　女団体　優勝
　複　優勝　岡室・坂口
　単　第2位　岡室
　　第3位　坂口

新人大会　男団体　第2位
　複　優勝　小河・橋爪

42年

県大会　男団体　優勝
　複　優勝　小河・橋爪
　女複　優勝　坂口・岡室
　　第2位　伊藤・和田
　単　第2位　岡室
　　第3位　坂口

全国大会　団体戦では不振ながらも、複では、小河・橋爪組が堂々8位にランクされた。

選手権大会　男団体　第2位
　複　優勝　小河・橋爪
　　第3位　南　・中家
　女団体　第3位

新人大会　男団体　第2位
　女団体　第3位
　複　第3位　伊藤・和田

43年

県大会　男団体　優勝
　複　第3位　和泉・渡辺
　単　第2位　福田
　女団体　第3位
　複　第2位　伊藤・和田
　単　第3位　伊藤

全国大会　昨年度の不振挽回をかけて望んだ全国大会は、予選リーグを難なく通過、決勝トーナメントに於ても準々決勝に進出したが惜しくも近大附高に敗退したが、4度目のベスト8入りを果たしたことは賞賛される。

選手権大会　男団体　第3位
　複　優勝　南　・中家

第2位　空地・福田
第3位　和泉・渡辺
単　優勝　南
第3位　福田
女複　第2位　和田・谷川
単　第3位　和田

新人大会　男団体　優勝
複　優勝　南　・中家
第3位　和泉・渡辺
単　優勝　南
第2位　中家
第3位　福田
女団体　優勝
複　優勝　和田・谷川
単　第3位　和田

44年

県大会　男団体　優勝
複　優勝　南　・中家
第2位　速水・渡辺
単　第2位　中家
第3位　南
女団体　第3位
複　優勝　和田・谷川
単　第3位　谷川

近畿大会　男子団体第3位入賞

選手権大会　男団体　優勝
複　優勝　福田・森浦
第2位　速水・渡辺
女団体　第2位
単　優勝　谷川

新人大会　男団体　第3位
複　第3位　森浦・久保
単　優勝　空地
女団体　第2位
複　優勝　谷川・後岡
単　優勝　谷川

この年より、新校舎建設の為、旧南体育館は取り壊わされ、北体育館で各部交代の練習となった。その為、練習時間の大巾な減少が余儀なくされた。辻監督は窮余の一策を講じ、小学生から成人までから成る新宮卓球研修会を組織し、その会名義で蓬莱公民館を借り受けて練習場を確保した。この卓研からは後の優秀な選手が多数育っており、新宮市内は勿論、東郡南郡の技術向上に多大な貢献を果たした。しかし、当時を振り返って、辻先生は、学校外でクラブの練習をする事に対して学校当局や一部の父兄の間に非難があったと苦笑している。

45年

県大会　男団体　優勝
複　第2位　空地・橋本
単　第2位　渡辺
第3位　空地
女団体　第3位
複　優勝　谷川・後岡
単　優勝　谷川
第2位　後岡

近畿大会　女子は県外試合では弱いというジンクスを初めて打ち破り、谷川は個人単で第3位入賞の快挙を成し遂げた。

全国大会　近畿第3位の勢いに乗った谷川は和歌山インターハイに於ても女子で初のランク入りを果たした。

選手権大会　男団体　第3位
女複　第2位　谷川・大江
単　優勝　谷川

46年

県大会　男単　第3位　前山
女単　優勝　大江

選手権大会　男団体　優勝
単　第3位　大末
女単　第3位　大江

新人大会　男複　第3位　山本・久保
単　第3位　大末

47年

県大会　男団体　第3位
女団体　第3位

選手権大会	男団体	第2位	
	単	第3位	石谷
	女団体	第2位	
	複	第3位	泉　・穂波
新人大会			
2年の部	男複	優勝	道前・浜中
	単	第2位	森本
		第3位	浜中
	女複	優勝	坪井・浜田
	単	優勝	松原
		第2位	坪井
		第3位	浜田
1年の部	男複	第2位	山崎・森本
	単	優勝	山崎
	女複	優勝	橋本・松原
	単	優勝	橋本

48年

県大会	男複	第2位	山本・石谷
	単	第3位	山本、石谷
	女団体	第2位	
	単	第3位	泉
選手権大会	男単	第3位	石谷
新人大会	男複	第2位	石谷・宅坊
	単	優勝	石谷
		第3位	酒井
	女単	優勝	泉

この年9月、29年以来監督を続けられてきた辻先生が一身上の都合により辞任され、本校卓球部は勿論、当地方の卓球界にとって偉大な指導者を失ったのである。しかしながら全日本硬式卓球選手権大会ジュニアの部で宮本以来、10年振りに石谷が第7位にランクされた。

49年

県大会	男団体	第3位	
	複	第2位	石谷・宅坊
	単	優勝	石谷
		第2位	宅坊
選手権大会	男団体	優勝	
新人大会	男団体	優勝	
	複	第2位	酒井・宅坊
	単	第2位	森岡

さらに、第2回全国高校選抜卓球大会に於て、石谷が昨年のジュニアに続いて2度目の全国ランキング入りを果たし第7位にランクされている。また、この年今までの卓球部OB会を改組、辻先生去りし後の現役の技術面の指導と金銭的な援助を強化してもらったことは頼もしい限りである。

50年

県大会	男団体	第2位	
	複	第3位	雨郡・森岡
	単	優勝	森岡
選手権大会	男団体	第2位	
	複	優勝	森岡・屋敷
	単	第3位	森岡
新人大会	男団体	第3位	
	複	第3位	森岡・屋敷
	女団体	第3位	
	複	第2位	弓場・中村

51年

県大会	男団体	第2位	
	複	優勝	森岡・屋敷
		第3位	谷口・板谷
	単	第3位	森岡
	女団体	第3位	

近畿大会　男子は7年振りに第3位に入賞。

全国大会　男単で森岡は3回戦で前年度ジュニア1位の橋本（鉾田一高）を破る殊勲を立てながらランク決定で敗退したのは惜しまれる。

選手権大会	男団体	第2位	
	複	優勝	谷口・板谷
		第3位	森岡・勢古
	単	第3位	谷口・屋敷
	女団体	優勝	
	単	第3位	弓場
新人大会	男団体	第2位	
	複	優勝	谷口・板谷
	女団体	第3位	

複　第3位　中村・谷下
単　第3位　弓場
三県大会　男単　第3位　谷口
女単　第3位　弓場
52年
県大会　男団体　優勝
複　優勝　屋敷・和田
第2位　谷口・板谷
単　優勝　屋敷
女団体　第3位
複　第3位　弓場・室谷
単　第2位　弓場
第3位　中村
近畿大会　打倒東山を目指して準決勝に進出したがまたもや惜敗し第3位にとどまった。
全国大会　45年以来、低迷を続けてきたが、7年振りに出場権を獲得、満を持して鳥取インターハイに出場した。団体では第3位入賞の柳川商業と1回戦で対戦、接戦の末、球運拙く敗退したが、個人複では谷口・板谷組がよく健闘し第3位に入賞第4位にランクされた。これは、36年以来の快挙である。

全国大会　S52年8月

選手権大会　男団体　優勝
複　第2位　高井・和田
単　第2位　和田
新人大会　男団体　優勝
単　第3位　和田
53年
県大会　男団体　第2位
複　第3位　高井・田阪
和田・東
選手権大会　男団体　第3位
女複　第3位　泉・井瀬
新人大会　男複　第3位　下村・東
54年
県大会　男団体　第3位
複　第3位　下村・東
中尾・川野上
選手権大会　1年の部　男単優勝　川野上

以上述べてきた、戦績は如何にして築き上げられたものであるかについて、述べてみよう。勿論、弛みない卓球への情熱、努力の賜物であることは言うまでもない。更にその上に、辻監督の練習指導を忘れる訳にはゆかない。昭和29年、母校の卓球部コーチとして就任した氏は、私立有名高に比べて遥かに少なく、色々な制限のつく公立高校の練習時間に対して、如何にして全国優勝を狙うチームを育てるかに心血を注いだ。その結果として出たものは、まず卓球理論を完全に身につける。即ち、理論武装することであった。少しでもわからない事があれば徹底的にミーティングをやり全員が納得する上で練習に入るという方式である。第2には、常にその時代での世界最高の技術を取り入れることであった。その方法としては、3年に一度、中央より全日本並びに世界チャンピオンを招待し、技術指導を受けることであった。これは現在も続けられている。荻村伊智朗、松崎キミ代、長谷川信彦、伊藤繁雄、山中教子等の日本並びに世界の球史を飾っている選手達である。この研修会には、新宮市、東郡、南郡の中高生は勿論、遠くは白浜、田辺、和歌山からも多くの中高生が参加しており、技術向上に非常な効果を表わしている。第3には、常に新しい練習方法を考え出して行くということである。

その一つに、全国どこの高校でもやっていないという足首に砂袋を巻く練習法があった。これは当時としては画期的な事であった。更に、神倉山のタイムを取った上り下り、集中力と持久力を養う縄跳び（２重跳びを５８００回跳んだという記録は今も破られていない）等がある。このように、少ない練習時間を如何に能率よく使うかという努力が新高卓球部の伝統を支えて来、輝かしい戦績を産み出して来たのである。後輩諸氏はこのような先輩が築き上げた伝統を受け継ぎ努力されんことを願ってやまない。　（現部長　道上　記）

昭和55年度　新高卓球部

	部長	道上　徹
	監督	中谷浩己
男子		
	３年主将	吉水　伸
	２年	川野上富久
	２年	中尾晃生
	１年	船谷健次
	１年	小野寺康哲
	１年	渡上祥孝
	１年	倉本哲男
女子		
	１年	仲　裕子
	１年	芝合五百代